

大槌町教育委員会だより



櫛の梢から

湧水とともに生きる 大槌イトヨについて学びました

イトヨはトゲウオ科魚類の一種で、日本を含む北半球の沿岸域を中心に広く分布している北方系の魚です。本町には源水川のような絶滅危惧種である淡水型イトヨの県内唯一の生息地に加え、小鮫川水系のように二ホンイトヨが海から遡上する希有な同所的生息地があります。

大槌学園5学年の「ふるさと科」授業では、講師でお迎えした岐阜協立大学の森誠一教授から、イトヨの生態や生物多様性について学びました。さらに、震災後出現した池で淡水型イトヨと海から遡上したイトヨが交雑して産まれた「ハイブリッドイトヨ」が生息する、町郷土財活用湧水エリアを訪れ、本物のイトヨや絶滅危惧植物であるミズアオイなどを観察し、多くの質問も挙げながら、体験を通して郷土の自然についての学びを深めました。



「わたしの主張」を堂々と発表

わたしの主張釜石地区大会（わたしの主張釜石地区大会実行委員会主催）が、8月28日（月）に大槌町文化交流センター「おしゃっち」で開催され、町からは、大槌学園9学年の清水琳世さん、吉里吉里学園8学年の倉本華さんの2名が弁士として登壇しました。

学校生活をはじめとするこれまでの自身の経験を通して感じた内容を、より多くの人たちに伝わる表現に推敲し、当日は、熱い想いや考えを、時に身振りや手振りを交えながら、堂々とした姿で発表しました。

また、大槌学園8学年の生徒の皆さんが、爽やかな声と動きで当日の司会進行や運営を務めてくれました。

大槌学園9学年
たかし みず りん ぜ
清水 琳世 さん
【演題】「言葉の影響力」



吉里吉里学園8学年
くら もと はな
倉本 華さん
【演題】「『出会い』は世界を変える」



司会進行・運営を務めた大槌学園8学年生徒の皆さん

【児童生徒の皆さん、保護者・ご家族の皆さんへ】 子どもたち一人一人に応じた多様な学びの機会をつくるために、 教育委員会が支援します

町教育委員会は、一人一人に応じた多様な学びの機会をつくるため、教育支援センター「けやき共室」を設置し、学園（学校）に行けない（不登校）、教室での授業が受けられない（別室登校）などの場合にも、子どもたちが学習や生活で困らないよう各学園と協力しながら必要な支援を行っています。

不登校（傾向）や別室登校で現在困難な状況にある児童生徒の皆さんや、保護者・ご家族の皆さんからのご相談をお待ちしています。具体的な支援策（内容、時間帯、場所など）は、本人やご家族、現在在籍している学園と相談しながら決めることができます。ぜひお気軽にご相談ください。

教育支援センター【けやき共室】

（大槌町子ども教育センター「OLAI（オライ）」併設）

大槌町大槌第23地割25-25（大槌交番隣）

※支援場所は、ご相談により各学園別室なども利用できます。



【教育なやみ相談電話】

電話番号
Tel 0193-42-7867
（受付：平日8:30～17:00）

大槌高校だより

大槌高校の学校生活や日々の様子を町民の皆さんにお伝えします！



大槌高校HPやnoteでも学校生活の様子を発信しています！

「大槌“で”学ぶ！」2年生マイプロジェクト始動

高校2年生の総合的な探究の時間では、自分の興味関心を軸にしたテーマを生徒が設定し、探究するマイプロジェクトが本格的に始まりました。今回は高校2年生のこれまでの取組の様子をお伝えします！

フィールドワーク

今後のマイプロジェクト活動に向けて、町内および周辺地域で各テーマに精通した社会人と出会い、対話や体験活動を通して、学びを深めるフィールドワークを実施しました。

生徒からは、「学校では学べないことを学ぶことができた」「郷土芸能のこれまでの歴史をもっと知りたくなった」「おすすめの文献を教えていただいたので、早速読んでみようと思う」など、たくさんの学びを得たようです。ご協力いただきました皆さま、ありがとうございました。



これまでの取組の発表

夏休み明けに、フィールドワークの学びや夏休みに起こしたアクションを発表しました。

実際に調理したり、文献調査をしたりなど生徒によって内容はさまざまですが、発表者は自分の言葉でグループのメンバーに伝えていました。また、聞き手の姿勢も学びの場を作るにあたって重要な役割を担っています。相手の発表に真剣に耳を傾け、感想や疑問に思ったことを伝えていました。これからも、『対話』を通して『学び合う』ことができる関係であってほしいと願っています。



間違ったことを伝えていました。これからも、『対話』を通して『学び合う』ことができる関係であってほしいと願っています。

大槌高校魅力化構想会議を実施します



- 日時 11月22日（水）18:30～20:00
- 場所 大槌町文化交流センターおしゃっち
- 内容 地域の皆さん、生徒、教員で熟議

大槌高校の生徒発表や魅力化の取り組み報告を行うとともに、「大槌高校の未来」というテーマで、生徒や教員、広く町民の皆さんと議論し、ご意見を頂く場です。ぜひ多くの方にご参加いただきたいです。詳細は次号でお知らせします。

輝く大高生

生徒会長である菊池康介さん（2年生）が7月26日（水）より3週間、TOMODACHI サマー・ソフトバンク・リーダーシップ・プログラム2.0に参加しました。アメリカのカリフォルニア大学バークレー校などで地域貢献とリーダーシップについて学んできたそうです。菊池さんにインタビューしてみました。

Q：具体的にどんな活動をしましたか？

居住地に近い人同士でグループになり、自分の地域の強みと弱みについて考えました。また、地域の課題に対しての解決策を考え、プレゼンテーションを行いました。

Q：アメリカに行ってどんなことを感じましたか？

日本と違う文化に触れ、自分の「当たり前」が当たり前ではなかったことに気づきました。周りにいる人それぞれのやりたいことを尊重している文化に触れたことは貴重な経験だと思っています。

Q：アメリカに行った前と後で自分が変化したことはありますか？

あまり人を頼ることが得意ではなかったけれど、何かプロジェクトに取り組むときに周りに相談し助けてもらいながら、みんなと協働していくことの大切さを学びました。

